



寒風に焼イモの香

「ピー——、ピー——」

いつもの時間にいつものおじさんがやってくる。するといつもの
呼売り声とともに、あの香ばしい匂いが寒夜の街角にただよってくる。

ポクッと割った、その時に立ちのぼる湯気、そして体にひろがる
里の香りと味。それは、世の女性をとりこにしまう魔力である。

今夜も、あたりを気にしながら足早に駆け寄ってくる毎度おなじみ
お客さん。凍てつく夜更けに交わされるアツカ——イイモ談義。
何かと気ぜわしい日々でのこの一コマは、年の瀬に見つけた一服の
清涼剤といったところ。

へ 人が夢見るそのころは 夜の寒さが身にしみる リヤカー引く
手も凍りつく こんなこよいもイモ車……

寒風吹き荒む師走の夜は、やけに泣かせるイモ風情である。

12月のおもな行事

- 4～7日 1985年農業センサス市町村事務打合せ会(三和町,
明野町, 荃崎町, 大穂町)
- 11～13日 (玉造町, 大洗町, 常陸太田市)
- 10日 小売物価・消費者物価事務打合せ会(水戸市)
- 17～19日 労働力調査員説明会(水戸市, 牛久町, 水海道市)
- 28日 御用納め